

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN vol.211

2019.12.20

特集
第70回大学祭
~rainbow~
七色の虹のように華やかに



NANZAN
UNIVERSITY

11/2⑨~4⑩

第70回 大学祭 rainbow

2019年11月2日から11月4日の3日間、第70回大学祭を開催しました。記念すべき第70回となる今年のテーマは「rainbow」。「七色の虹のように華やかに来場者の皆様がわくわくするような大学祭を作り上げよう」という思いが込められています。大盛況となった3日間。特に盛り上がりを見せた団体を一部ご紹介します。

世界料理総選挙

2018年度南山チャレンジプロジェクト採択団体・ITBによる「世界料理総選挙」。昨年に続き2回目の開催となる今年は、6団体の協力を得て、日本・韓国・ドイツ・タンザニア・台湾・スペインの郷土料理を販売し、来場者には料理購入時にシールを配布、また食べたいと思った料理の投票板にシールを貼ってもらうようにしました。3日間を通して合計1,636票が集まり、多くのご来場者の方々に世界の料理をお楽しみいただきました。



昨年度の反省を生かし、バラバラだった投票所を1カ所にまとめて分かりやすくしたり、より多くの在学生に参加してもらうため1か月前からポスターを貼り宣伝を行いました。6団体分の衛生面やルールの管理・徹底など準備期間は大変なこともありましたが、当日は協力団体の皆さんのおかげで無事に開催できて良かったです。3人で取り組むのは今年で最後になりますが、世界料理総選挙はまだまだ面白い企画に発展させることができると思っています！企画・運営に興味のある在学生の方、募集中です。来年で以降も、国際色豊かに食を通して世界を感じられるような大学祭になることを願っています。



ITB
西松陸さん、菜切翔さん、加藤雄大さん
(経営学部経営学科3年)

優勝

硬式庭球部(きしめん/日本)

ドイツ文化研究会(カリーヴルスト/ドイツ)

One Step(カシヤタ/タンザニア)

ボランティアサークルTogether(イペリコ豚ハムロッケ/スペイン)

BADOOL(タビオカ/台湾)

合気道部(チーズホットドッグ/韓国)

協力団体

ラクロス部×焼きそば

ラクロス部の焼きそばは「おいしい」と毎年大人気！長年続く伝統ある模擬店で、今年も長蛇の列ができていました。キャベツ、もやし、豚肉などが入ったソース味の焼きそばに目玉焼きがトッピングされているのが特徴です。

出店をしなかった11月3日は、第28回東海学生ラクロスリーグ戦で男女ともに見事優勝しました！



ラクロス部 学祭係
(左から)
甲斐祐芽実さん(国際教養学部国際教養学科2年)、
小関翔也さん(理工学部ソフトウェア工学科2年)、
小島隆平さん(国際教養学部国際教養学科2年)、
小林由菜さん(経営学部経営学科2年)

予想以上にたくさんの方が買いに来てくださったことで、途中で材料がなくなりそうになり急遽買い出しに行ったりとハプニングもありましたが、多くの方から「おいしい」と言っていただけで嬉しかったです。ラクロス部の男子と女子で1つのことに取り組むのは年に一度大学祭の時だけですが、今年も1年生を中心に協力あって楽しく取り組むことができて良かったです。来年は、家族や友人はもちろん、より多くの一般のお客様にもお買い求めいただけることを願っています。



ホームカミングデー

南山大学同窓会主催の、年に一度卒業生が集まるホームカミングデー。抽選会や茶席、バザー、子ども向けのイベントなどが催され、多くの卒業生が家族連れで母校を訪れました。在学生と若手卒業生を対象とした講演会と交流会「南山卒コン」では、シーホース三河株式会社 取締役社長の鈴木秀臣氏を講師としてお迎えし、「スポーツエンターテイメントの世界」と題してご講演いただきました。キャンパス内では、校舎を懐かしむ姿や旧交を温め合う姿が多く見られ、心温まる1日となりました。



大学祭運営委員長
白井嵩也さん
(法学部法律学科3年)

第70回大学祭を終えて

記念すべき第70回目となる南山大学祭が大成功で幕を閉じました。皆様にとって今年の大学祭が、テーマ「rainbow」に込められた願いである七色の虹のように華やかにワクワクする大学祭であつたら幸いです。

さて、私が大学祭を通して感じたことは、自分が多くの人に支えられているということです。特に大学祭運営委員会のメンバー(以下「学祭人」)にはとても支えられました。大学祭期間中、学祭人は4泊5日の泊まり込みで朝早くから夜遅くまで仕事をしています。そんな中、学祭人のみんなは指示した仕事をいつも楽しそうにこなし大学祭を盛り上げてくれました。そうした学祭人の支えがあって僕は委員長として大学祭を成功させることができたのだと思います。学祭人のみんな本当にありがとう！感謝してもきれないです！また、ご来場者様や参加団体、協賛企業の方はもちろん大学職員や大学周辺地域の方々にも大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。

僕たち3年生は今年で引退してしまいますが、残った後輩たちはとても頼もしい人ばかりです。そんな頼もしい後輩たちが作り上げる来年の大学祭を皆さんも楽しみにして下さい！



大学祭運営委員会メンバー

これまでの大学祭

1960 → 2018 南山祭

1969 10th 南山祭

1978 1980 1985 1988 1990 1998 1999 2000 2003 2007 2009 2012 2013 2014 2015 2016 2018

2001 → 2016 聖南祭

総合政策学部・数理情報学部(現在の理工学部)、総合政策研究科・数理情報研究科の二学部二研究科を設置していた瀬戸キャンパス(2000年~2017年)で開催されていた大学祭「聖南祭」。名物の階段装飾が毎年来場者を迎え入れました。

(写真:南山アーカイブズ所蔵)

私の研究



菅原 真 (すがわらしん)
法学部 法律学科 教授

専攻分野は、憲法・国際人権法。
研究テーマは、自らの国籍・市民権法制、外国人の権利、冤罪・再審問題など。
主な担当科目は、日本国憲法、憲法A・B、人権特論、憲法(人権)。

れています。グローバル化が進展し国際結婚が増える中で、「主権」や「国籍」の観念を再検討することが求められています。特に公権力の行使と国籍の問題について、欧州人権裁判所の判例や諸外国の動向を分析・考察することで、日本の公法学に新しい理論を提供していきたいと考えています。

さらに、最近私が取り組んでいるもう一つのテーマに、冤罪・再審の問題があります。冤罪は国家権力による最大の人権侵害です。「10人の真犯人を逃すと、1人の無辜を罰するなかれ」という法格言があります。現在第10次再審請求が行われている名張毒ぶどう酒事件は、日弁連が支援する冤罪が濃厚な事件です。学生と現地調査を行なって確定判決の問題点を洗い出し、比較法の観点から再審法改正の動きについても調べています。

歴史と比較の観点から「人権」を探究

私の研究領域は、憲法学の人権分野です。これまで主に日本とフランスにおける国籍と市民権に関する研究に取り組んできました。現在は、重国籍者の政治的権利(選挙権・被選挙権・公務就任権)について研究を行なっています。日本にも89万人の重国籍者がいると推定されています。近代国際法の「国籍唯一の原則」が揺らいでいるのが現実です。欧州では1997年に欧州国籍条約が批准され、批准国では重国籍者の権利が保障されることになっています。現在、日本においても重国籍者の国籍喪失を定める国籍法11条違憲訴訟が裁判所で争わ



韓南大学校との学術交流会において



名張毒ぶどう酒事件の現地調査の様子

私のクラス



角山 朋子 (かくやまとこ)
外国語学部 ドイツ学科 講師

専攻分野は、ドイツ語圏のデザイン史、芸術学、芸術思想。
研究テーマは、オーストリア近代デザインと女性デザイナー、第二次世界大戦期ウィーンの事情から、他。
主な担当科目は、ドイツ語、中級ドイツ語、ドイツ思想研究、演習。

ドイツ語圏の芸術、モノ、社会

私はオーストリアのデザイン史を専門としています。デザイン史学は、デザインされたモノやデザインという行為から、社会の成り立ちや変化を明らかにすることを目指す学問です。

今回は、芸術やモノと社会の関係を扱う、私の「演習」の授業を紹介いたします。この授業は、学生による発表とディスカッションが中心です。ドイツ語圏のデザイン・建築・美術を取り上げ、背景としての政治や経済、技術にも着目します。

今秋は、ウィーンの画家グスタフ・クリムトの後期作品を連続してテーマとしました。学外授業として「クリムト展:ウィー

ンと日本1900) (豊田市美術館)を訪れ、本物の作品も見ました。

学生は作品の特徴を探そうとすると、最初、「何が」描かれているかに集中しがちです。しかし、しだいに対象が「どう」描かれているか、筆致、色彩、構図などにも注意するようになります。意見交換しながら、見えてくるものが増えると学生たちも楽しそう。クリムトの作品表現と、第一次世界大戦や新たな芸術運動といった、同時代の出来事との関連も検討します。そして、総合的に、当時のウィーンの社会や文化に対する理解を深めていきます。

このように、文献を読むとともに、モノやイメージを観察しながら学んでいくのが、私の授業の特徴です。授業で「見る」力を鍛えることで、視覚的な情報が溢れる日々の過ごし方も、少し変わってくるかもしれません。



「演習II・IV」の授業風景。たくさん読み、見て、議論します。



INTERNATIONAL FRIENDSHIP

27th ASEACCU Conference 2019

ASEACCU (東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

期間: 2019年8月19日~8月23日
場所: Sogang University (大韓民国・ソウル)
参加者: 古川彩さん(人文学部人類文化学科4年)
岩田朋子さん(人文学部人類文化学科3年)

ジョンやプレゼンテーションの発表を行い、アジアの若い世代が直面するこれからの課題についてカトリックの視点から理解を深めました。

岩田朋子さん感想

今回のASEACCU学生会議では、アジアの問題や歴史のみならず、素晴らしいグループメンバーに恵まれたことで「世界は人と人で成り立っている」ということを改めて学ぶことができました。会議で国境線の見学や、政治と歴史・性差別・人権についての講義を受ける中でアジアには沢山の争いが過去から現代まであるのだと気づきました。その一方で他国からの参加者との温かな交流を通して、人は相違点ではなく共通点を見出し愛と友情をもって繋がっていくことができるのだと知りました。彼らと共に過ごす中で、育ってきた環境や文化が違って、平安を願う気持ちや人間のもつ根本的な美しさは共通なのだわかりました。そのことにASEACCUを通して気付けた私は、より良い新しい未来を築いていく責任があるのだと感じます。

帰国後、私は通訳のボランティアを始めました。また出会った仲間達とは今でも連絡を取り合っています。新たな気付きと友人を与えてくれたASEACCUに心から感謝します。



ファイナルパフォーマンス後、グループメンバーと

※ ASEACCU: The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities

古川彩さん感想

世界が小さくなった5日間でした。世界がもっと愛おしくなった5日間でした。食卓を囲んでいても、バスに乗っていても、いつも真ん中に笑い声がありました。楽しい時、おいしい時、一生懸命な時、すべてを共にしたグループメンバーの存在は、どこまでも大きくなりました。「家族みたいだね」という台湾の学生のひとことに、万感の思いで頷くことのできる、恵み溢れるひとときでした。不思議なことに、ことばや文化が違うほど、その奥にある心のカタチがいかにも同じであるかに気付かされます。人という生き物の持つ強さ、弱さ、そして温かさが、苦しいほどに迫ってくる中で、この世界で共に生きている喜びが、もういちど心の中に沁みわたりました。

日韓の血を引く者として、心がこわばることもある昨今です。しかし、出会った人、これから出会う人を素直に愛したいという思いは、奥の奥まで沈んだ本物です。与えられた出会いに心から感謝します。



グループショット ~Sogang University キャンパス内にて~

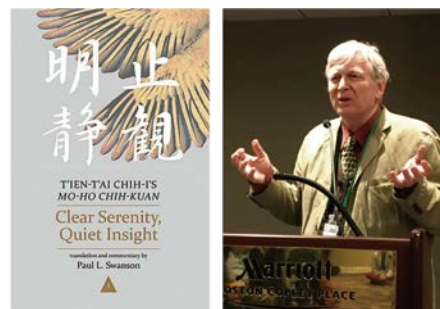
南山宗教文化研究所、人文学部 ポール・スワンソン教授が、2019年度トシヒデ・ヌマタ仏教学賞を受賞

南山宗教文化研究所、人文学部のポール・スワンソン教授の著書「Clear Serenity, Quiet Insight (『摩訶止観』の英訳・研究)」(3巻、Nanzan Library of Asian Religion and Culture, Hawai'i University Press)が2019年度トシヒデ・ヌマタ仏教学賞を受賞しました。

本賞は、カリフォルニア大学バークレー校仏教学研究所が、2010年以来毎年、仏教学の優れた著書に授与しているものです。選考委員会は、スワン

ン教授の著書に対し、「画期的」で「傑出した学術作品」、「熟練した研究の継続による最高度の成果」と称賛しており、スワンソン教授の学識豊かで明晰な翻訳により難解な天台仏教思想が鮮やかに解明され、包括的で詳細な注釈が3巻にわたり展開されていると評価しています。

スワンソン教授からは、受賞にあたり「30年間かけて地道に進めた研究ですが、これは南山宗教文化研究所でこのような研究ができる環境が整っているから



こそ完成できたので、南山大学の皆さんのご理解とご支援に感謝しています。」とお話いただきました。

人文学部 佐藤啓介准教授が、第2回日本基督教学会賞を受賞

人文学部キリスト教学科の佐藤啓介准教授の著書『死者と苦しみの宗教哲学—宗教哲学の現代的可能性』(南山大学学術叢書、晃洋書房、2017年)が、日本基督教学会第67回学術大会において第2回日本基督教学会賞を受賞しました。本賞は、刊行時45歳未満の若手学会員が過去5年間に刊行した図書の中から、(1)専門性、(2)独創性、(3)議論の整合性、(4)全体の統一性、(5)学術用語に対する寄与、(6)学術書に相応しい表現・表記の観点で精査され、優れた作品1点が選ばれるものです。

選考委員会は、宗教哲学の現代的可能性を問う研究書として、その専門性と独創性を特に評価しました。佐藤准教授の宗教哲学的思索について「これまでの先行研究を踏まえつつも独自のものであり、多くの研究者にとって刺激となる素材を与えると言える」と称賛しています。

佐藤准教授からは、受賞にあたり「このたびは、このような榮譽ある賞を受賞し、大変光栄に思っております。対象となった拙著は、過去10年ほどつづけてきた、悪や苦しみの、死者など『暗い』テーマをめぐる宗

教哲学的思索をまとめたものですが、まだ多くの課題が山積しています。今後、一層の研究に励みたく存じます。また、本書は、南山大学学術叢書の一冊として刊行されました。この出版助成制度がなければ本書を刊行することすらできませんでした。南山学会に心より感謝申し上げます。」とお話いただきました。



(写真提供:晃洋書房編集部)

N棟・第2研究室棟にラーニング・コモンズ開設

2019年9月、「南山大学 レーモンド・リノベーション・プロジェクト」の一環として改修を進めていたN棟・第2研究室棟の改修工事が完了し、1階にラーニング・コモンズを開設しました。従来からある図書館やS棟、Q棟に加え、4カ所目の設置です。

カウンター席、テーブル席、ボックス席、グループ学習用の個室を設け、様々な学習用途に利用可能です。個室には大型ディスプレイやプロジェクタ、ホワイトボード等が備え付けられており、プレゼンテーション準備やグループ学習に活用されていま

す。さらに、論文・レポート作成に便利なネットワークプリンタも設置し、多目的な学習スペースとして広く利用されています。N棟・第2研究室棟の中庭では学生が談笑する姿もみられ、新たな憩いの場にもなっています。



活躍する南山大生

経営学部の学生が産学連携でお菓子開発

経営学部経営学科3年で石垣ゼミナール所属の朝倉沙弥華さん、竹内一馬さん、中村優月さん、三浦未羽さんが、菊一あられ株式会社と共同で「138(いちのみや)うーめあられ」を開発し、2019年10月5日から10月27日に開催された一宮だいたいフェスタで無料配布しました。これは、一宮市の尾西信用金庫および地元の菓子メーカーである菊一あられと産学連携契約を締結したことによる活動の一環です。

地域活性化について研究したいと集まった4人。愛知県一宮市の一大イベントである一宮だいたいフェスタに注目し、世代を問わずに楽しめるイベントであることから、年配の方だけではなく子どもにも楽しめるあられの開発に取り組みました。50種類以上の試作を繰り返し、ゼミ内で人気のあった4種類に絞った後、一宮市の小学生による人気投票で白しようゆコンソメ味に決定。その後実際に工場にも足を運び、イベントで配布するあられの味付けや袋に入れた後のシール貼りも自分たちで行いました。完成したあられは、子ども達の意見を反映したいとの思いから、一宮市の小学生を対象にネーミングを募集し、300件以上の応募の中から「138



(左から)三浦さん、朝倉さん、中村さん、竹内さん 一宮だいたいフェスタにて

うーめあられ」に決定。「おいしい」という意味合いと、一宮市が地域資源、地域ブランドとして育てている「羊」の鳴き声がかっこよく掛けられていることが決め手となりました。

イベント期間中は、オープニングセレモニーでネーミングを発表したり、職業体験ブースで子ども達と一緒にあられの味付けをしたり、食品メーカーの即売会で販売促進をしたりと、毎週末イベントに参加し、子どもたちにあられを配布しました。現在は、一宮市を中心に菊一あられの販売所や小売店で販売しています。(販売期間未定)

また、尾西信用金庫とは一宮警察署の協力を得て交通安全の啓蒙活動を行いました。活動開始当時、子どもの交通事故が頻発していたことから、きちんと左右を確認し横断歩道を渡ることを推奨するティッシュペーパーを子ども達に配布しました。

代表の朝倉さんは、「子ども達が喜ぶ顔を想像しながら、何回も何回も試作を繰り返しました。どうしたら子ども達の喜ぶあられを作ることができるか、イベントに足を運んでいただけるか、目にして行きたいようなチラシになるか、たくさん試行錯誤しながら取り組んできました。イベント期間中、実際にあられを食べた子ども達から『おいしい!』『1番好きな味!』と言ってもらえたことがとても嬉しかったです。また、メディアにも積極的に出演し宣伝を行った結果、新聞を見て足を運んでくれたという親子連れの方もいっしょに、微力ながら地域活性化の一助となったこと、また大人の方からもご好評いただけたことも大変嬉しかったです。」と話してくれました。



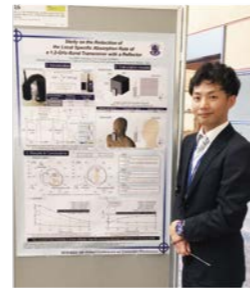
理工学研究科の学生が、2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2019)で受賞

2019年10月15日から10月18日に千里ライフサイエンスセンターで開催された2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2019)で、理工学研究科機械電子制御工学専攻博士前期課程1年 奥村・藤井研究室所属の汲田祐さんがIEEE GCCE 2019 Excellent Poster Awardを受賞しました。

IEEE(アイ・トリプル・イー)とは、米国に本部を持つ電気・電子技術に関する世界最大の学会であり、世界160か国以上で会員数42.3万人を擁しています。

GCCEは、IEEE コンシューマ・エレクトロニクス・ソサイエティが主催する、情報家電に関する国際会議で、毎年10月に日本で開催されています。

汲田さんは「Study on the Reduction of the Local Specific Absorption Rate of a 1.2-GHz-Band Transceiver with a Reflector」と題して英語で発表しました(Co-authors: Katsuyuki Fujii, Yasuyuki Okumura)。その結果、特に優れたプレゼンテーションを行った発表者と認定され、本賞を授与されました。



Special Events

2019.9.25、2019.10.2、2019.10.16、2019.10.31

多文化交流ラウンジStellaで秋のイベント開催

多文化交流ラウンジStellaで、9月から10月にかけて様々なイベントを開催しました。

新たな出会い・国際交流を目的としたイベント「Hello Stella」では、日本人学生と留学生が名刺交換会をしたり、チームに分かれてキャンパス内を散策し、指定されたチェックポイントで写真撮影をしたりしました。そのほかにも、ハンドベルの演奏を体験できる「Handbell Workshop」、留学生とゲームを楽しむイ

ベント「君も国際交流にTRYだ!」、ハロウィンイベントなど、様々なイベントを実施し、開催日には多くの在学生・留学生で賑わいました。NIA(Nanzan International Ambassador: 多文化交流ラウンジStellaを運営する学生)のサポートもあり、初めてイベントに参加する学生も積極的に交流をすることができました。



NIAの学生たち



Special Events

2019.9.28

父母の集い

9月28日に、南山大学と南山大学後援会の共催で、第47回南山大学「父母の集い」を開催しました。

全体集会の第1部では、鳥巢学長、浅野後援会理事長の挨拶に続き、学生生活、進路支援、2019年度の就職状況、国際教育について説明を行いました。

第2部では、就職活動報告会と学生活動報告会の2種類の企画を同時開催しました。就職活動報告会では、企業人事担当者と就職活動を終えた在学生3名がパネルディスカッションを行いました。学生活動報告会では、課外活動(南山チャレンジプロジェクト)・研究・ゼミでの産学連携活動・留学についてをテーマに4組の学生・団体が自身の取り組みについて発表しました。

他にも、学部・学科懇談会や指導教員との個別面談、学内の施設見学などを実施しました。



2019.10.7-2019.10.11、2019.10.23

学生交流センター・セントルム設立10周年

学生交流センター・セントルムが今年で設立10周年を迎えることを記念し、様々なイベントを開催しました。

南山チャレンジプロジェクト採択団体NANZAN We-Goが主催するプレゼンテーション企画「NANZAN AID」とコラボしたイベントでは、「南山で叶えたい夢」をテーマとして、在学生在が英語でスピーチを行いました。イベントに参加していた留学生も飛び入りでスピーチをするなど、大いに盛り上がりました。

また、交流イベントとして「全国から集まる南山大生との交流会」を開催し、北海道・山梨県・福井県・静岡県出身の学生を迎え、交流をしました。ご当地のお菓子のほか、学生交流センターコアグループである「GLSルン・アルンプログジェクト」がタイの少数民族が育てたコーヒー豆を使ったコーヒーを提供し、参加者はお菓子とコーヒーを飲みながら話に花を咲かせていました。

さらに留学生とのスポーツイベント「セントルムSPORTS DAY」を開催し、多くの学生がスポーツを楽しみました。



セントルムTAの学生たち

2019.10.19

第53回野外宗教劇「受難」

10月19日に、パッパ・スクエアで第53回野外宗教劇「受難」の公演を行いました。「受難」は南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストの受難を大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる野外劇です。

今年は「愛」をテーマに、自らの運命に葛藤するイエズスと救いを求める人々との触れ合い、衝突、十字架にかけられるまでを描きました。一年ぶりの野外での公演ということで、野外宗教劇の伝統を引き継ぎながら、新しい演出を取り入れて劇づくりに挑みました。当日は迫真の演技が次々に繰り広げられ、今年も盛況のうちに幕を閉じました。



2019.11.2-2019.11.5

韓南大学校法政大学法学部(韓国)との学術交流会

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法政大学法学部は、毎年11月初旬に学術交流会を開催し、研究発表や議論を行っています。1年交代で日本または韓国を開催国としており、17年目となる今年は、韓南大学校で11月2日から11月5日に実施しました。

この交流会は、法学部・法科大学院の教員のみではなく希望学生も参加しており、今年は「韓日民法改正の動向」をテーマに議論を交わしました。学術交流の他、懇親会も実施し、大学間の交流が積極的に図られました。



Special Events Schedule

2020.3.20

2019年度南山大学卒業式

開催日時: 2020年3月20日(金・祝)

第1部 午後1時より

第2部 午後3時15分より

場 所: 南山大学体育館

内 訳: 【第1部】

外国語学部、法学部、理工学部、情報理工学部、短期大学部、
国際地域文化研究科、理工学研究科、法務研究科

【第2部】

人文学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、
人間文化研究科、社会科学部研究科、ビジネス研究科

問合せ先: 総務課 (Phone: 052-832-3112)



2019.11.1

アメリカ合衆国ノーザンケンタッキー大学から、学長のAshish K. Vaidya氏、Executive Director, Global Engagement and International AffairsのFrançois Le Roy氏が来学され、鳥巢学長を表敬訪問されました。ノーザンケンタッキー大学は、2018年8月に文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された本学の「日米をつなぐNU⁴-COIL²」～地

域に根ざしたテイラーメイド型教育プログラム～」の連携先の一つで、今回の来訪を歓迎すると共に2年目を迎えたCOILプログラムの現状や両大学の更なる連携強化について意見交換を行いました。



News

名誉教授が秋の叙勲受章

令和元年秋の叙勲において、近江誠名誉教授が瑞宝小綬章を受章しました。

近江名誉教授は、1974年南山短期大学講師となった後、77年助教授、84年に同教授に就任。南山短期大学学生部長、同図書館長、同学長補佐などを歴任しました。2011年に南山短期大学名誉教授の称号を授与されました。

Information

2020年度学生納付金改定について

2020年度南山大学学生納付金について、2019年3月29日開催の南山学園理事会において、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費を据え置くことを決定しました。

◎学部学生

情報理工学部、理工学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生およ

び2年次生は現行の18,000円に、3年次生および4年次生は現行の9,000円に据え置く。

情報理工学部、理工学部については、授業料を現行の818,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

◎大学院学生

理工学研究科および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費

を現行の200,000円に据え置く。

理工学研究科については、授業料を現行の654,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

【2020年度学生納付金徴収(引落)日】

・春学期(第1・第2クォーター分)

2020年4月13日(月)

・秋学期(第3・第4クォーター分)

2020年9月28日(月)

各学期の公示、および学納金通知はがきにてご案内いたしますので、ご確認ください。

寄附者ご芳名

「南山大学レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金」へのご協力に感謝いたします。

武市直子様 村田朝子様 田内洋子様 鈴木英夫様 匿名ご希望者13名様
加納倭文子様 加藤丈治様 嶋田共広様 中島経年様
濱千代智秀様 永井祐子様 中根勝美様 服部乃里様 株式会社桜木不動産コンサルタント
國島良造様 青山泰雄様 中村弥寿子様 大西弥生様 不動産鑑定士 武藤正行様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

武市直子様
村田朝子様

レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金のご協力のお願い

南山大学では、建築家のアントニン・レーモンド氏(チェコ共和国)により設計された歴史あるレーモンド建築を次の時代に受け継ぎながら、キャンパスアメニティを改善し、学生生活環境や学習環境を充実させる、レーモンド・リノベーション・プロジェクトを実施しています。このプロジェクトの推進にあたり、卒業生や保護者の皆さまをはじめ、広く地域社会の皆さまにご支援をお願いさせていただくために、「レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金」を行っております。皆さまからのあたたかいご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【募金概要】

募集期間: 2018年7月1日～2022年3月31日

目標額: 3億円

寄附特典として、オリジナルグッズの進呈や寄附銘板の作成および学内への設置を実施しております。

詳しくは南山大学公式Webページでご確認ください。

<https://www.nanzan-u.ac.jp/raymond/bokin/>

お問い合わせ先: 南山大学学長室 052-832-3113



改修前のG棟コリドー
(写真: 南山アーカイブズ所蔵)



壁画やレーモンド氏の妻であるノエミ氏がデザインしたベンチは残しつつ、現代風に改修された現在のG棟コリドー



南山大学

発行 学長室 / 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp <https://www.nanzan-u.ac.jp/>

2019.12.20